

**千葉大学医学部附属病院で
内視鏡的胃・十二指腸ステントの治療を受けた
患者の皆様、ご家族の皆様へ**

2024年3月25日

消化器内科

消化器内科では、内視鏡的胃・十二指腸ステント留置を受けた患者様の経過と予後に関する研究を行っており、以下に示す方の診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に診療情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方

2000年1月1日～2024年2月29日の間に千葉大学医学部附属病院で
内視鏡的胃・十二指腸ステント留置を受けた方

1. 研究課題名

「内視鏡的胃・十二指腸ステントの治療成績と留置後の経過を調査する後方視的研究」

2. 研究期間

2024年承認日～2026年3月31日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

3. 研究の目的・方法

癌により、胃や十二指腸が狭くなることで食物や水分が流れていなくなり、その結果、食事がとれなくなったり、嘔吐を繰り返すようになることがあります。この治療法として、胃・十二指腸ステント留置術と外科的バイパス手術があります。胃・十二指腸ステント留置術は早期の飲水・食事開始が可能であること、治療後の入院期間が短いこと、治療に伴う患者様の負担が少ないことなどの点でバイパス手術よりも優れると報告されています。ただし、ステント留置後に、ステント内腔閉塞やステント逸脱などのステントトラブルが起こることがあります。今回、当院で胃・十二指腸ステントを留置した症例の治療成績やその後の経過を後方視的に調査させていただきます。これにより、今後の治療において、留置やその後に注意すべき点などが明確となる可能性があり、意義のあるものと考えてい

ます。

4. 研究に用いる情報の種類

診療録に記載されている年齢、性別、日常生活自立度、生活歴（飲酒・喫煙など）、職業歴、既往歴、併用薬、家族歴、血液学的検査等の臨床検査結果、内視鏡検査時の情報、採取された検体の病理報告書の情報、内視鏡検査後の経過、外科手術検体の病理報告書の情報など。

5. 研究組織（情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究機関：千葉大学医学部附属病院

研究責任者：腫瘍内科 助教 高橋 幸治

6. 個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学医学部附属病院消化器内科において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細については、千葉大学のホームページをご参照ください。

(URL : <http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html>)

7. 研究についての相談窓口について

研究に情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口

〒260-8677

千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学医学部附属病院

腫瘍内科 助教 高橋 幸治

043(222)7171 内線6672